

【著者】菊池嘉晃(きくち・よしあき)

1965年、東京都生まれ。博士(国際文化)[法政大学大学院、2018年]。早稲田大学第一文学部(英文学専修)卒業。1987年に読売新聞社入社。地方部、社会部、『読売ウイークリー』編集部の記者として韓国・北朝鮮関連の取材などに携わる。その後、東北総局長などを経て東京本社勤務。現代韓国朝鮮学会監事。アジア政経学会会員、朝鮮史研究会会員。

定価：本体8,800円+税

A5判/上製/864頁/2020年1月刊

1959年から84年まで9万人をこえる在日コリアンや日本人配偶者らが北朝鮮に帰国(移住)した事業。冷戦下の国際関係の力学のなかでどのような経緯で実施され、いかなる影響をもたらしたのか。日本語、朝鮮語、フランス語、ロシア語、英語などの多様な資料を解読し、移民史の視点も加えて分析した労作。

● 内容構成

序章 問題意識と研究目的

帰国事業の経緯と社会的評価の変遷/先行研究と課題/研究目的と視角/本書の構成

第1部 日朝・日韓関係と「帰国問題」の展開

第1章 在日コリアン社会の形成と発展(明治期～昭和戦前期)

韓国併合前の在日コリアン/韓国併合後の在日コリアン/小括

第2章 解放～朝鮮戦争期の在日社会(1945年～1953年)

在日コリアンの解放と帰還/占領期・ポスト占領期の日本での状況/小括

第3章 在日コリアン運動の転換と帰国運動(1953年～1955年)

北朝鮮帰国と日朝往来の模索/民戦の路線転換と帰国運動の展開/小括

第4章 朝鮮総連と帰国運動の再編(1955年～1958年前半)

日朝関係の開始と帰国問題/赤十字国際委員会(ICRC)の関与/小括

第5章 関係国の対立と帰国事業の実現(1958年後半～1959年)

帰国運動の大規模化と日本政府の決定/帰還協定締結と帰国事業の開始/小括

第6章 帰国事業開始後の推移と日朝関係

帰還協定に基づく帰国事業(1959年～1967年)/3年間の中絶後の帰国事業(1971年～1984年)/小括

第2部 北朝鮮の意図と帰国者を巡る状況

第7章 北朝鮮の国家戦略と帰国事業

北朝鮮の国家戦略/「南」からの誘引・移住/「拉北」/ソ連・中国在住コリアンの帰国推進/在日コリアンの帰国推進と対南戦略/小括

第8章 帰国意思の形成と北朝鮮情報

帰国(移住)の動機・目的/誇大な宣伝とメディア/帰国意思形成と韓国側要因/帰国しなかった人々と在日社会の変容/小括

第9章 北朝鮮における適応問題と現地社会との葛藤

移住者の危険要因/北朝鮮帰国者の適応と危険要因/帰国者に対する現地社会と当局の対応/ポスト帰国事業期の帰国者・日本人妻/小括

終章 大規模な集団移住の特質と諸要因

「移民的帰還」の特質とマクロ・ミクロ・メソ構造/帰国事業長期化の要因と影響/成功しなかった「人道事業」

北朝鮮 帰国事業の研究

冷戦下の「移民的帰還」と 日朝・日韓関係



明石書店

TEL.03-5818-1171

FAX.03-5818-1174

〒101-0021 東京都千代田区外神田6-9-5

図書目録送呈 <http://www.akashi.co.jp/>

ご注文方法

- 最寄りの書店へ、このチラシご持参の上、ご注文ください。
- 直送ご希望の方は、電話またはFAXで弊社へお申し込みください。
- 代金引き替え郵便でお送りします。代金は配達の方にお支払ください。
- 書籍代(本体価格+消費税)に加え、送料として一律300円かかります。

北朝鮮帰国事業の研究

冷戦下の「移民的帰還」と日朝・日韓関係

菊池嘉晃 [著]

●定価：本体8,800円(+税)
ISBN978-4-7503-4960-2

フリガナ

TEL

お名前

ご住所 〒

冊

明石書店

TEL 03-5818-1171
FAX 03-5818-1174